

減反目標決る

横芝一六、二〇〇表

昭和四十五年度から実施され、米の生産調整及び稻作転換については、農家の皆さんの積極的な協力により推進してまいりましたが、昭和四十八年度も需要に対応した農業生産を確立するため稻作から今後の需要が見込まれる農作物への作付けの推進という、前年度における基本方針にそつてひきつづき実施することになりました。昭和四十八年度の国からの指示によりますと当町では、生産調整目標数量九百七十二トンで減反

面積は二百十ヘクタール（二百十町歩）となっております。一方買上げ数量については、昨年より九百六十七俵増え、昨年より六万八百十七表となっています。

なお、四十七年度における生産調整結果が次表のとおりまとまりました。これによると生産調整実施延農家数は、五百七十一戸であり、生産調整奨励金は、二千二百七十八万七千円が支払われたことになりました。



「教育資金」にと一千万円

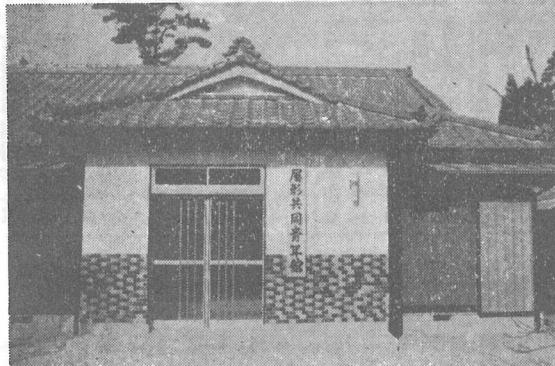
栗山の小川己代治さん寄贈

贈をしてくださいました。

小川さんは大正十二年埼玉師範を卒業してから二十有余年教育者としてすごされ、その間常に、各学校とも P.T.A.などの積極的な協力はあるものの、生徒たちが親しむ文庫の不完全なところが多いのを感じ感謝するとともに、さつそく小学校などの文庫の拡充に及んだと云うことです。町でも達に本を読ませてあげたい」という願いからこのたび町へ一千円という多額の寄はかるなどを考えていました。

栗山の小川己代治さん（六十八才）は、「ぜひとも子ども達に本を読ませてあげたい」という願いからこのたび町へ一千円という多額の寄はかるなどを考えていました。

栗山の小川己代治さんは、この心温まる厚意に対し感謝するとともに、さつそく小学校などの文庫の拡充を



青少年の話し合いの場

屋形共同青年館完成

屋形四社神社境内に、当町十七館内の青年館、屋形共同青年館が、去る一月十三日誕生いたしました。

この青年館は、また、研修、娯楽、スポーツの集会などに積極的に利用され地域社会における福祉活動の拠点として大いに活用されることが期待されます。

青少年のグループづくりに、この近代的な建物です。

今後、この青年館を中心

れた功績により、山武地方社会教育連絡協議会長より表彰を受けました。

二十年以上にわたり、住民の公僕として地道に働いて来られた、町職員の部内表彰が

た。

去る二月一日に行われまし

た。

た。</p